

## 第2回環境部会記録

1. 日 時 平成24年11月9日(金) 10:00~12:00

2. 場 所 本会会議室

3. 出席者(順不同敬称略)

部会長 中村 勉(工学院大学/中村勉総合計画事務所/東京)

副部会長 篠 節子(篠計画工房/東京)

澤地孝男(建築研究所/茨城)

委 員 辻 充孝(森林文化アカデミー/岐阜)

糸長浩司(日本大学/神奈川)

山田貴宏(ビオフォルム環境デザイン室/東京)

宿谷昌則(東京都市大学/神奈川)

山口克己(アルセッド建築研究所/東京)

阿部弘明(空間デザイン/大阪)

欠席者 大野二郎(日本設計/東京)

河野 進(河野進設計事務所/東京)

常務理事 木村行道

事務局 山田隆一、永田厚生、阪本 靖

4. 報告事項

(1) 新委員について

中村部会長より、新たに大野委員、河野委員、阿部委員の3名の委員に参加いただき協力を賜ることになった旨の報告と阿部委員の紹介が行われた。

(2) 住宅省エネルギー施工技術者講習(C講習)の開催情報

事務局より以下の報告があった。

10月よりC講習が開催され始めた。同講習では本年度に受講者11,000名を目標としている。地域によっては開催情報が示されていないが、今後オープンにされる予定である。なお、同講習のテキストを各委員に配布するので内容等について後程ご意見をいただきたい。

5. 議題

(1) 本部会の検討テーマについて

中村部会長より、本部会の具体的検討テーマは前回、今回及び次回の計3回で詰めたいので、引き続き各委員の意見を願いたい旨の説明があった。

①住宅省エネルギー施工技術者講習(C講習)等について

(各委員の主な意見)

- ・受講者にもう少し噛み砕いた説明をしないと理解が得られない。
- ・高断熱化によるコストアップと工期についてどう考えるのかをセットで考えなければいけない。
- ・地域によってウエートが違うので、地域性を踏まえた細やかな対応が必要。
- ・熱還流については数値ばかり追いかけるのではなく体感で学ぶことが肝要。

- ・設計者には快適と省エネを混同しているケースが多々見受けられる。
  - ・このテキストはメーカー関係の手によるものか。厳格に施工することばかり書いてあるが、必ずしもそれが正しいとは言えない。また、P35 の写真は内部結露によるものでなく雨水等によるものと思える。
  - ・教科書としてはここまで書かざるを得ないかもしれないが、絶対にしてはいけない重点注意箇所が地域別にあるとよい。
  - ・断熱の必要性をもっと認識する仕掛けが足りない。
  - ・断熱と健康は密接な関係があり、断熱改修と医療の関係もあるであろう。光熱費から断熱の要・不要を考えてしまうケースから脱却したい。
  - ・医療と建築との関係では、空気環境ばかりでなく、例えば床の傾きが原因で目眩（めまい）につながることもある。
  - ・自ら学びたいという意識になってもらうためにも、受講後に宿題を提出してもらうなどフォローを続けることも大事ではないか。
  - ・連合会でテキストの補足資料として実際に有用な薄い資料を作ることが必要と思う。自身はWGを設置して検討したい。
  - ・ストック、伝統木造、3会共同検討、環境配慮契約法などについてはどうか。
  - ・JIAのWGでの環境性能調査の結果はもうじき出る。頭の中で伝統木造を考えるのは良いが、実際に未来に向け継承されることを考えたい。
  - ・国交省のパブコメには50以上の書き込みを行った。数値が多く、設計者には理解できても施工者にはづらい。
  - ・伝統木造をやり続けてきた人には従来通りで良いと考える人もいるが、木造も進化すべきという考え方も必要ではないか。
  - ・伝統木造を手掛けてきた人は、自分の建物がどれだけのエネルギーを使用するのかについて知るべきである。
  - ・エネルギーを使うことが快適性の向上になるという認識の人もいるようだ。
  - ・建築単体でなく、まちを良くすることで環境、建物もよくなるという観点からどのような考えがあるか。
  - ・コミュニティーアーキテクトの環境部門の方がもっと関わるとよい。
  - ・地域の中に建築士が入り込み、みんなで環境を考えることで賛同者が増え、コミュニティーが良くなる。
  - ・低炭素のまちを作るには、地方分権の絡みで国からは大きく言えないので、やはり建築士会の力が求められるのではないか。
  - ・ハウスメーカーの営業文句に施主が傾き、口下手の地場の施工者は負けてしまう。よりよい地域住宅づくりには、施主と施工者へ建築士会からの支援をする必要がある。
  - ・建築士会が環境教育として、PTA、子供にも住まいづくりを教えに行く。
  - ・PTAと子供については小学校では遅い。未だ家を持っていない世代は保育園児のPTAである。保育園との連携が良い。
  - ・共同プラントで温水供給をしたいが、コスト、メンテの問題で困難である。
  - ・この2回の部会意見を集約すると、7つの項目が挙げられる。
- ① 省エネ性能の普及啓発のために県支部でセミナーを企画すること、住宅省エネルギー施

工技術者講習（C講習）のフォローとして、地域ごとに対応でき、重点ポイントをまとめた資料の作成とそのためのWGの設置

- ② 改正省エネ基準と伝統木造の今後について、伝統木造とその環境性能を考えるために、仮称：地域型環境住宅研究会を日本建築家協会、日本建築学会、日建連の4会で作くり、国交省への提言を行っていく。
- ③ 環境配慮契約法（公共建築を入札によらないプロポーザルで実施する方策）の自治体への働きかけ、環境プロポーザルの中小事務所への門戸を開いた要項の指導、審査委員の派遣、実施の支援を行っていく。
- ④ ストックをどう改修していくか、環境改修のモチベーションをつくり、環境改修を活発にするための研究を、ロングライフビル推進協会などと協働して行う。
- ⑤ まちづくり、外部環境の向上のためのエココミュニティーアーキテクト的取り組みとして、低炭素まちづくりの促進、分かち合い団地。エコビレッジの普及、エコ・コミュニティーアーキテクトの人材発掘、環境コミュニティーアーキテクト賞などの顕彰などを行っていく。
- ⑥ 自然、再生可能エネルギーの普及に関し、地域ごとのエネルギーセンターの活用、地域エネルギー自給自足の研究、地域経済とつながった地域エネルギー開発などの研究を行っていく。
- ⑦ 中小工務店、設計者の環境実践を支援する手法の開発、住まい手、作り手、設計者への環境教育戦略を考える。

以上の意見が出され、次回の部会で引き続き検討をすることになり了承された。

## （2）次回の部会の開催について

本日欠席の委員へ以下の日程候補を提示し、調整の上開催する。

- ①1月30日（水）10：30～12：30
- ②1月31日（木）10：00～12：00
- ③2月6日（水）10：00～12：00
- ④2月7日（木）10：30～12：30

以上